

国史跡「美濃金山城跡」から 戦国時代の知恵を読み解く

中井均さんが保存管理計画策定
委員に就任

― 中井さんにはお忙しいところ、今回設置した「史跡美濃金山城跡保存管理計画策定委員会」の委員をお引き受けいただき、ありがとうございます。
中井 どういたしまして。個人的に興味がある城でしたし、お世辞抜きで、担当者のやる気を感じましたので、引き受けさせていただきました。また、私は以前米原市の文化財担当もしており、文化財行政に携わった経験者としての責任もありますので。

中井さんと城との出会い

― 中井さんがお城に興味を持たれたのはいつ頃ですか。
中井 小学校5年生から、人物往来社の「日本の名城」や現代文庫の「日本の城」を愛読していました。「日本の城」は右ページに解説があり、左ページに写真があつて、行ったお城に順番に印を付けていくのが楽しかったですね。きつ

かけは普通の人と同じで、天守閣がある近世のお城に引かれたからでした。

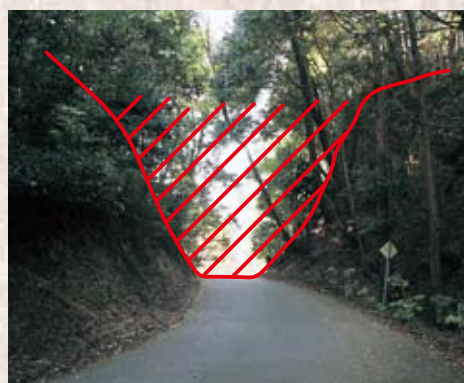
私は大阪府枚方市の生まれです。実家は商売をしていましたので、親がどこかに連れて行ってくれるということはありませんでした。中学生になると日曜日には一人でバスに乗り、東は名古屋、西は播州赤穂まで、北は丸岡や福知山まで城めぐりをしていました。

山城の魅力

― 天守のある近世のお城から山城に興味に移ったきっかけは何ですか。
中井 高校生になって、日本城郭近畿学生研究会に参加した時に、私の常識は木っ端みじんに碎かれました。

「なんでこれが城なの?」「なんでこんな山に行くの?」「単なる山じゃないの?」と最初は疑問だらけでした。研究会の先輩に、「これが土塁で、これが堀切なんだ」と教えてもらったのですが、見方が分からなかったです。現地に行っても分からなかったのですが、

先輩たちと何度も一緒に山城に行つて、ある日開眼したのです。分からない人は何度行つても分からないかもしれないですが、自分は割と早い時期にこれが堀切、これが土塁ということが分かったのです。当時、歴史は文書に書いてあったのですが、遺構については一切書いていなかったのです。



① 尾根伝いに攻めてくる敵を止める意図で設けられた美濃金山城跡東側の大堀切



② 敵の侵入を妨げ、城の内部の構造を見えなくする効果がある美濃金山城跡の土塁

美濃金山城跡の印象は

― ところで、美濃金山城跡の印象はいかがですか。

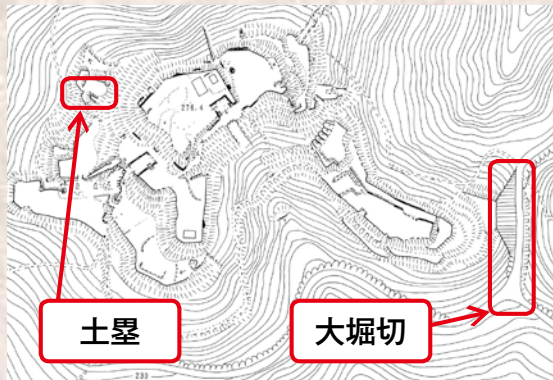
中井 高校生の時に、小里城（瑞浪市）、金山城（可児市）、妻木城（土岐市）、苗木城（中津川市）、岩村城（恵那市）と2泊3日で行きました。当時受けた印象は、戦国から近世にかけての過渡的な城であり、戦国の城に近いという印象でした。先輩から誘いの案内が来た時には、金山城って言われても分からなかったです。本もない時代でしたから。

しかし、現地に行つて、あの石垣が残っていて、目から鱗が落ちました。あの山に石垣を組んだ織豊系城郭のすばやさ。『兼山町史』の執筆者である荒井金一さんに案内をしていただき、「美濃金山城跡」という本をいただきました。当時、個別に城の本を出しているところはなかったので、とても感動しました。兼山では青年の家に宿泊しましたが、その玄関に城跡から出土した遺物がずらりと並んでおり、その多さにも驚きました。ちなみに、今でもその時に撮った城跡や遺物の写真は、大切に保管してあります。

山城の楽しみ方

― その山城をどのように楽しんでおられるのですか。
中井 関東の人たちと山城に行った時

に感じたことですが、お城の見方に違いがありました。彼らは、関東近辺には近世のお城がないので、早くから山城の構造を縄張図に描いて研究していたのです。縄張図とは、城の平面構造のことで、城の設計図にあたります。



美濃金山城跡の山頂部分の縄張図（高田徹さん作成の縄張図を一部加工）

問合先 教育文化財課

入場
無料

可児郷土歴史館企画展関連企画

「美濃金山城から 天下統一を探る」

中井均さんと（公財）日本城郭協会学術委員会副委員長の加藤理文さんという日本の城郭研究を代表する2人が可児市を舞台に激論を交わします。2人の絶妙な掛け合いも必見です。



左：加藤理文さん
右：中井均さん

期日 9月23日(祝)
時間 午後1時～4時
場所 文化創造センター・アーラ
内容 美濃金山城の紹介
中井均「天下統一の時代と美濃金山城―その構造の魅力―」
加藤理文「瓦と石垣―美濃金山城は当時最先端の城だった―」
討論「美濃金山城から天下統一を探る」
※ 9月4日(木)から教育文化財課窓口で配付する整理券が必要です。

問合先 教育文化財課